

5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学職員のICT活用能力の開発・強化を支援するため、全国の大学・短期大学を対象に「大学職員情報化研究講習会」を基礎講習コースとICT活用コースとして実施する。教育の質的転換を目指したICT活用の企画・提案、e シラバス・e ポートフォリオ・IRシステムの整備・活用の課題認識に主体的に関与できるよう、知識理解の獲得と実践力の向上を目指す。

<事業の実施結果>

「大学職員情報化研究講習会運営委員会」を継続設置し、「大学職員情報化研究講習会」を7月に基礎講習コース、12月にICT活用コースを開催した。以下に、委員会及び講習会の活動を報告する。

大学職員情報化研修講習会運営委員会

5月1日、10月19日、平成30年3月22日に平均12名が出席し、3回開催して開催要項の策定、実施準備、開催結果の振り返りを行った。

(1) 基礎講習コース開催要項の策定

基礎講習コースは、大学の職員がICT活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて、主体的に取り組む考察力の獲得を目指した。

本コースのプログラムは、基礎的に学習すべき情報を私情協Webサイトのコンテンツと、昨年度実施した本講習会の成果を踏まえて事前学習してくることを前提に、基本的な知識・理解を共有する全体会と、ICTを活用した望ましい改善策の構想を検討するグループ討議の2部で構成した。

全体会では、「ICTの活用と課題」、「データの活用と業務の改善」、「eポートフォリオの構築と活用」、「情報セキュリティ」の情報提供を行い、ICTを活用して教育改革及び業務改革に主体的に関与することの重要性について気づきを促すことにした。その上でグループ討議では、参加者がどのように教育改革や大学改革に関与すべきか、対話、議論、発表・相互評価を通じて、課題認識の深化を目指して、以下のように開催要項を策定した。

平成29年度大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース開催要項

1. 開催日程：平成29年7月18日(火)～20日(木)
2. 会 場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）
3. 対 象 者：私立大学・短期大学に所属する職員
4. 開催趣旨

本協会では私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、全学的な教育の質的転換及び教学マネジメント体制の整備に向け、職員として情報通信技術（ICT）を駆使した教育改革に主体的に関与できるよう知識理解を深めるとともに、実践力の向上を目的として研究講習を実施しています。

本コースは、参加者が、ICT活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。

5. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。

- ① ICTの活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識する。

- ② 自己の業務の改善や職場における課題解決にICTの活用を考え、提案できるようにする。

6. プログラム概要

【事前研修】

大学を取り巻く環境、社会が大学に求めること、ICTを活用した学修環境など、研修参加にあたり把握しておいていただきたい基礎的な情報について、私情協のWebサイト上のコンテンツと昨年度実施した本講習会のグループ討議の成果を踏まえて、事前に学習していただきます。

【本研修】

第1部では、研修を進めるにあたり必要となる大学を取り巻く環境、大学教育の質的転換の必要性と教学マネジメント体制の重要性、それらを実現するための基盤環境として情報通信技術(ICT)活用の意義などについて情報を共有し、課題認識を深めます。

第2部では、自らがどのように教育改革や大学改革に関与すべきか、対話と議論により望ましい改善案の提言作りを通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

7. 第1部：【全体会】

(1) イントロダクション「研究講習会での学びについて」

木村 増夫 氏（上智学院理事長補佐、運営委員会委員長）

大学の経営戦略や教育活動の充実に向けて、職員が主体的に取り組むための心構えについて理解の共有を図ります。

(2) 情報提供

①「ICTの活用と課題」

遠藤 桂一 氏（芝浦工業大学情報システム部長）

大学の業務改革、教育改革におけるICT活用の現状を紹介し、考えるべき情報システム及び支援体制について理解の共有を図ります。また、情報の活用はどのようにするのか、業務のICT化ではどのような能力が求められているかを確認します。

②「データの活用と業務の改善」

斉藤 真左樹 氏（日本福祉大学常務理事、副学長）

情報を収集・可視化、各部門で共有することで問題を発見し、解決に向けた取り組みについて、ペーパーレス会議などの事例を通じて、どのように情報を活用して業務改善につなげているか理解の共有を図ります。

③「eポートフォリオの構築と活用」

高島 伸治 氏（金沢工業大学情報処理サービスセンターシステム部長）

学生の学修活動振り返りと教員の授業振り返りを通じてカリキュラムなどの改善につなげるeポートフォリオの構築から仕組み、効果・課題など学生支援に向けた取り組みについて理解の共有を図ります。

④「情報セキュリティ（自分がきっかけにならないために）」

西松 高史 氏（金城学院大学財務部システム担当課長）

自分の行動が情報流出、データ改ざん、組織全体へのウイルス感染、身代金要求型攻撃による感染被害の要因とならないため、サイバー攻撃の現状を確認し、注意すべきことについて考えます。

(3) 全体討議

事前研修を含め、情報提供について理解度の確認を行った上で、グループごとにICTを活用して教育改革及び業務改革に主体的に関与することの重要性について、気づきを共有します。

8. 第2部：【グループ討議】

大学の管理運営や主体的な学修環境を構築するにあたり、職員各自が果たすべき役割やそれを実現する手段としてICTを活用する意義・重要性について、グループ討議により確認・共有し、教育活動のイノベーションにつながる提案、大学の管理運営改善に資す

る提案に向けて、ICTの活用を含む望ましい改善策の構想作りを行います。

＊ステップ1「気づきの確認」（1日目）

イントロダクション及び情報提供を受けて、大学改革の必要性、職員に求められる能力、ICTを活用して教育改革及び業務改革に関与することの重要性と主体的な取り組み姿勢について、各自がどのような「気づき」を得ることができたのか、グループ内で発表し、共有します。

＊ステップ2「討議と成果のまとめ」（2日目、3日目）

教育活動のイノベーションにつながる提案、大学の管理運営改善に資する提案に向けて、ICTを活用した望ましい改善策の構想作りについて、午前と午後に分けてグループ討議を行います。その際、グループ討議の成果を自己点検・評価できるようにするため、到達度評価項目のチェックシートを用いて確認します。

＊ステップ3「発表・相互評価」（3日目）

グループ討議の成果発表、グループ間での相互評価、意見交換を行います。

（2）基礎講習コースの実施結果

50大学から95名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

- ① 参加者の7割がICT活用の初心者で大学の教育改革、業務改革にICTを活用して主体的に取り組むことができるよう、基礎知識の情報提供及び理解の共有とICTを活用した望ましい改善策の考察を行った。
- ② 参加者からのアンケートによれば、「社会の変化に伴って大学の機能・方針を再構築する必要性が確認できた」、「人工知能を代表とした情報技術の発展により、従前までの業務範囲が変わり、職員個々の意識改革が必要になる」、「教職協働するために、情報を共有するシステムを構築したい」など、多くの感想が寄せられた。なお、開催結果の詳細は、巻末の平成29年度事業報告の附属明細書【2-11】を参照されたい。

（3）ICT活用コースの開催計画の策定

プログラムは、「教育・経営改革に向けた大学のデータ活用」をテーマに、IR、ポートフォリオ、人工知能、ソーシャル・メディア活用の取組みや方向性を共有することを目指して、全体会と分科会により構成した。全体会では、IRプロジェクトの取組みとポートフォリオについての紹介、分科会では、「人工知能を用いた自己成長支援システム」、「IR活動に必要なデータ分析ツールの導入・効果」、「ICTを活用した業務改革の取組み」、「統合データベースとBIツールの活用」テーマを設定し、参加者の希望に応じて受講できるよう、以下のように開催要項を策定した。

平成29年度大学職員情報化研究講習会 ICT活用コース開催要項

1. 開催日程：平成29年12月2日（土）
2. 会 場：同志社大学寒梅館（今出川校地室町キャンパス）
3. 対 象 者：私立大学・短期大学に所属する職員及び教員、賛助会員企業の社員
4. 開催趣旨：「教育・経営改革に向けた大学のデータ活用」

教育・経営改革に向けて、教育・学生生活・入試・就職・経営などの実態を科学的に分析するため、学内外のデータ活用が重要視されています。データを組み合わせることによって因果関係の明確化、傾向予測など、課題の解明に向けて組織的に取り組む必要があると考えています。そこで、本研究講習会では、IR、ポートフォリオ、人工知能、ソーシャル・メディア活用の取組みや方向性を共有します。

5. プログラム概要

(1) 全体会

① 会場校挨拶

横川 隆一氏 (同志社大学副学長)

② イントロダクション「ICT活用コースのねらい」

木村 増夫氏 (上智学院理事長補佐、運営委員会委員長)

③ 「関西大学教学IRプロジェクト～調査から見た学生の姿～」

鶴丸 憲一氏 (関西大学学事局次長)

2014年度に誕生した本プロジェクトは、大学の内部質保証システム強化を目的にした、教職協働・学部横断型の取り組みを通じて、学修成果の可視化にどのように活用しているか紹介します。

④ 「学修ポートフォリオシステム導入・活用等の参考指針」

岩井 洋氏 (本協会大学情報システム研究委員会委員長、帝塚山大学文学部教授)
学修ポートフォリオの導入促進・有効な活用方策、eポートフォリオシステムに備えるべき機能の留意点について、本協会委員会でまとめたガイドラインを紹介しします。

⑤ 「eポートフォリオを活用した学修・教育支援の取り組み」

星野 聡孝 氏 (大阪府立大学高等教育推進機構教授)

学生の自律的学修習慣の確立と学修の継続的な自己改善の促進、教員の教育改善促進及び大学の組織的な教育改善の促進を目指して開発運用を行っている eポートフォリオについて、大阪府立大学の取り組みを紹介しします。

(2) 分科会

① セッション1「人工知能を用いた自己成長支援システム」

高島 伸治氏 (金沢工業大学情報処理サービスセンターシステム部長)

正課・課外授業の学修成果をビッグデータとして蓄積し人工知能技術で評価・検証していく中で、学生一人ひとりが学修の仕方を振り返り主体的な学修行動を支援する取り組みを紹介しします。

② セッション2「IR活動に必要なデータ分析ツールの導入とその効果」

相生 芳晴氏 (上智大学情報システム室兼IR推進室)

多角的にデータを集計・加工・視覚化し、意思決定につなげる分析を可能にするツールの組織的な導入効果、IR活動を活性化する組織体制、データの共有・活用を促進する環境を構築する取り組みを紹介しします。

③ セッション3「ICTを活用した近大流業務改革の取り組みー背景・経緯と展望」

牛島 裕氏 (近畿大学総合情報システム部事務部長)

データセンターを核としてクラウドを用いた情報環境基盤を整備し、学内情報の集約と経費節減による法人全体の最適化を目指した業務改革を紹介しします。

④ セッション4「統合データベースシステムとBIツールを活用した教学IR推進の取り組み」

藤野 津芳氏 (神戸学院大学全学教育推進事務グループ教学IR室担当)

多様な学生データを横断的に結合・可視化し、データ分析を効率よく実施するために、統合データベースとデータ分析ツールを導入し、学生の満足度向上を目指す取り組みを紹介しします。

(4) ICT活用コースの開催結果

49大学、1短期大学、5賛助会員から82名の参加があった。職員がデータを活用して教育改革、経営改革に関与できるよう、IR、ポートフォリオなどのデータを組み合わせ、課題の洗い出しなどに組織的に取り組む対策について、認識を共有した。

全員を対象に情報提供を行う全体会と、テーマ別希望者による分科会の2郡構成で実施した。全体会は、「教学IRプロジェクト」、「学修ポートフォリオシステム導入・活用等

の参考指針」、「eポートフォリオを活用した学修・教育支援の取り組み」の三テーマを紹介した。分科会では、「人工知能を用いた自己成長支援システム」、「I R活動に必要なデータ分析ツールの導入とその効果」、「ICTを活用した近大流業務改革の取り組み」、「統合データベースシステムとB Iツールを活用した教学I R推進の取り組み」の四テーマを前半、後半に分けて希望に応じて受講できるようにした。以下に概要を報告する。

- ① 全体会1番目の「教学I Rプロジェクト」では、関西大学が内部質保証システムを強化する目的で取り組んでいる事例で、大学全体レベルと学部・研究科レベルの評価、関西大学ポリシーとしての考動力の評価、学びの支援機能の評価について紹介が行われた。
- ② 2番目の「学修ポートフォリオシステム導入・活用等の参考指針」では、本協会がとりまとめたガイドラインについて、ポートフォリオの導入促進・有効の活用方策、eポートフォリオシステムや備えるべき機能の留意点が紹介された。
- ③ 3番目の「eポートフォリオを活用した学修・教育支援の取り組み」では、大阪府立大学で実施している学生の自律的学修習慣の確立と継続的な自己改善の促進、教員による教育改善の促進、大学組織による学修成果を評価している取り組みと今後の教員業績評価への活用が紹介された。
- ④ 分科会の1番目の「人工知能を用いた自己成長システム」では、学生一人ひとりにあった成長を支援するために、人工知能型自己成長支援システムの取り組みをWatsonを用いて卒業生10年分、約1万5千人の成績、就職の定型データとポートフォリオデータを組み合わせ、Watsonから自動音声でアドバイスする金沢工業大学の取り組みが報告された。
- ⑤ 2番目の「I R活動に必要なデータ分析ツールの導入」では、ビジネスインテリジェンス(BI)のツール(Tableau)を導入することで、各部門でデータの分析・可視化が容易になった。データの共有と公開が今後の課題であることが上智大学から報告された。
- ⑥ 3番目の「ICTを活用した近大流業務改革の取り組み」では、近畿大学が法人全拠点のシステム統合を目指す中、業務改革に取り組むために全ての業務システムをAmazonのWebサービスに完全移行したことで、費用が10分の1に抑えられた。今後はビックデータの解析・学習を人工知能で行うことにより、大学・業務の標準化と効率化を推進する計画も紹介された。
- ⑦ 4番目の「統合データベースシステムとB Iツールを活用した教学I R推進の取り組み」では、Tableauを導入することで、データの分析結果を可視化することにより、課題の洗い出しが容易になったことと、多額の費用を軽減できたことが神戸学院大学から報告された。

なお、開催結果の詳細は、巻末の平成29年度事業報告の附属明細書【2-11】を参照されたい。